

# 六所つれづれ

豊田市総合野外センター  
令和元年9月19日 15号

中秋の名月。薄い雲の合間から、ときおり姿を見せてくれました。兼好法師の「花は盛りに、月は隈なきをのみ、見るものかは」の名言とは離れるものの、雲の陰から垣間見える月も、なかなか風情がありました。昼の日差しにも、夏のざらざら感がめっきり減り、秋らしく様変わりです。そういえば、日暮れが早くなり、夜明けもずいぶん遅くなってきました。六所は、今、秋の盛りを迎えようとしています。

九月に入り、小学生のみなさんの活動が始まりました。秋の風、秋の実りの中でのキャンプ生活が続きます。

## 第2回 青少年育成委員会

9月7日(土)、本年度2回目の青少年育成委員会が開催されました。

これは、豊田市文化振興財団の青少年部(青少年センター、総合野外センター、産業文化センター<とよた科学体験館>)の3つの施設)が取り組む事業について、外部組織が「評価」を行い、事業への助言と改善点の指摘等により、事業のさらなる向上をめざす目的で運営される会です。

5月の第1回の会合では、3施設から昨年度の事業報告があり、あわせて本年度の事業の説明がなされました。

この組織は、

- 委員(学識経験者、青少年活動や野外活動に取り組む団体の責任者、小中校長会代表など) 8名
- オブザーバー(文化振興財団副理事長、同専務理事、市役所担当課課長など) 4名
- 事務局(財団青少年部長、各施設の代表など) 複数名

から構成され、年3回、定期的に関催されます。

このうち、上段の委員は、3つの施設が開催する事業へ、モニターとして視察参加し、企画の内容や運営方法等について評価と指導助言を行います。

なお、総合野外センターのモニタリングの結果については、以下の通りでした。

### 今回のモニタリング対象の事業

- ① 親子自然体験塾① 「親子の昆虫観察」…令和元年6月29日実施  
※内容「六所つれづれ10号」参照
- ② 六所のつと② 「自然の中でとことん夏あそび」…同8月16日～18日実施  
※内容「六所つれづれ13号」参照

### モニタリングの結果と協議内容

#### ①について

○昆虫の名前や生態など、所員の専門性に頼るところが大きいのではないかと。対応として、外部講師の活用についても検討すべきではないかと。

→財団内部で、必要に応じてその道に通じた職員に派遣を依頼している。事業内容に応じて、外部講師を招くことも検討していく。

#### ②について

○対象の子ども年齢の幅が大きいのではないかと。

○人気のある事業だから、募集人員の増加を検討すべきではないかと。

→経験者や年長者の活躍の場の提供

や初体験者への配慮、安全面への配慮や他事業とのバランスから考えて実施している。

○事業内容の充実の割に参加費が安く、意味のある事業である。

→参加費はできるだけ安価に押さえ、内容の充実を図りたい。

以上のように、概ね良好であり、事業の継続実施が妥当という評価をいただきました。

利用者のご要望、費用対効果、事業の意義など、さまざまな点から検討を重ね、より充実した事業を展開していきたいと考えます。モニタリングにかかわっていただいた委員のみなさま、ありがとうございました。

## とよた科学体験館 アストロクラブ親子天体観望会 「お月見観望会」

9月14日、とよた科学体験館主催のアストロクラブ親子天体観測会が開かれました。前日の中秋の名月に続いて、月の観測ができるか、参加のみなさんも、主催者も、会場の野外センター職員も、そろって関心を寄せた行事です。

残念ながら、雲に覆われ、月は姿を見せませんでした。一日違いで、ほん

とうに残念です。

しかし、「月見」にまつわる伝統的な取組はしっかりと行いました。写真は、さえずり広場で「月見だんごづくり」のようすです。



米粉に少しずつ水を入れ、練り込んでいきます。「だんごの数は、十五夜にちなんで、15個をめやすに」という指導の先生の助言にしたがい、手のひらでくるくる丸めます。形が整ったら、沸騰した湯へ入れ、茹でます。

だんごが完成すると、次は「あれ」とり出しかけます。そう、「あれ」とは、もちろん秋の七草のひとつ「すすき」です。しかし、気候のせい、時期が少々早いのか、場内を巡ってもなかなか見つかりません。担当者が事前に場内を探し、その場所へ向かいますが、穂の小さなものばかりです。それでも、なんとか見つけ、だんごとすすきという、月見にふさわしいかっこうができました。

日本の月見の歴史は古く、太古の昔から月を神聖視していたと思われまゝ。すでに縄文時代には月を愛でる風習があったという説もあります。

今のように十五夜の月見が盛んになったのは平安時代で、各種の文献にもあります。月を見ながら酒を酌み交わし、船上で詩歌や管弦に親しむという、なんとも風雅な催しだったようです。さらに、直接、月を眺めるのではなく、水面や杯の酒に映る月を愛でたというのですから、ますます趣があります。

諸説がある中、秋の収穫に感謝する、自然の恵みをいただく、まさに六所の環境にぴったりあった事業であったと思います。参加のみなさま、ありがとうございました。

### 小学校のキャンプ活動 後半の開始です

夏休みが終わり、いよいよ小学生のキャンプが再開されました。夏の盛りから、秋、そして秋の深まりと、季節の移ろいを確かに感じる季節の到来とともに、六所の麓に子どもたちの元気



な声が帰ってきました。

ずいぶん涼

しくなりました。朝、キャンプ場へ行き、子どもに必ず聞くことがあります。「どう、テントの中でよく寝たかな」「朝方、寒かったでしょう」。何しろ、ここ数日は、朝の気温が10℃台とな

っています。ちなみに、この通信発行日の自然の家の外気温は、15℃でした。

写真は、ファミリー広場で野外炊事に励む子どもたちのようすです。食事のメニューは、焼きそばと焼きおにぎり、焼きじゃがいも、そして「卵」料理。準備を始めたころは、照りつける太陽の下で日陰を探しましたが、いただきますを迎えるころは、陽も傾き、すっかり秋の夕暮れに。キャンプ生活には絶好の季節がやってきました。

### 秋の風物詩です



この虫、ご存じでしょうか。

残念ながら、実物を見たことはありません。

「甲虫目オトシブミ科チョッキリ亜科」に分類される、ハイイロチョッキリと呼ばれる



ゾウムシの仲間です。実は、昨年の秋、野外センターの「虫博士」から、そういう虫がいることや、不思議な生態のことは聞いていました。しかし、勤務一年目の「緊張」からか、すっかり忘れていたのです。

今年、場内散策で、この虫の「仕業」を発見しました。紙面の都合で、ハイイロチョッキリの不思議さの紹介は、次号にゆずります。お楽しみに。

### 魂知和

テレビがつまらなくなった。

と思うのは、自分だけだろうか。いつ見ても、クイズと健康の番組。番組編成の時期には特番と称して、バラエティ。芸人、芸人と自称するも、めったに「芸」らしきものは見せず、何をもってそう称するのかわからない▲白黒テレビからカラーへ。アナログからデジタルへ。自分の成長は、テレビの発達とともにあった▲職場の同世代と「てなもんや三度笠」の話題が出た。半世紀以上も前の番組だ。そして、思う。今のどんな番組も、半世紀後に語られることはないだろうと。笑いを創り出そう、笑いの渦に巻き込まう、当時の番組製作者にも、芸人にもそれがあったと思う。昨今の笑いはお仕着せの感が強い、とは言い過ぎか▲文化は世に連れ、世は文化に連れ。どちらがリードするかは別として、世相と文化は密接に関わっている。文化の廃れは、世相の貧弱さを呼ぶ。一方、世相の低迷は、文化の発展に影響する▲個性尊重、他文化尊重は、民主主義の根幹である。それは一個の人間の価値や尊厳につながる。しかし、それがいつの間にか「それぞれで、よし」「勝手気まま」まで生み出した。そのときどきの利根的な「受け」ねらいの番組が横行する。テレビに限らずラジオでも、生半可な言葉遣いの若者のことばが電波に乗る。世相がなせる技か、文化乱立の予兆か。